

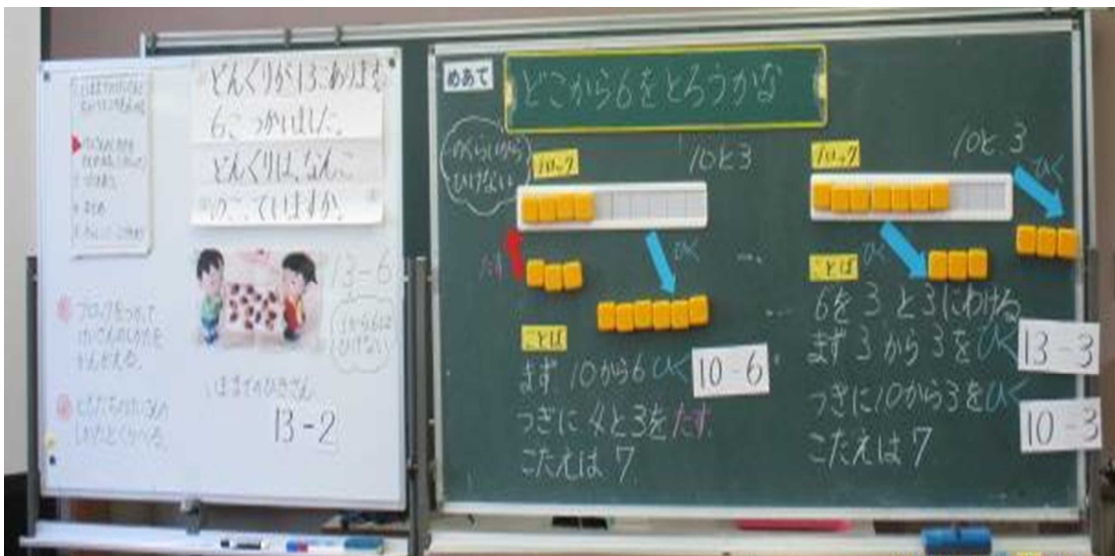
授業者も！参加者も！学ぶ!!高まる!!広げる!! 西部の算数・数学の未来へのバトンをつなぐ

平成30年8月30日(木)
西部教育事務所

8月30日(木)に、2回目の授業づくり講座の教材研究会を具同小学校で開催しました。

授業者の宮崎先生は、これまでの内容ベースの単元構成では2種類の計算方法が出されても、単元の前半は減加法を教える時間、単元の後半は減減法を教える時間として、2種類の計算方法の良さを感じさせることができていなかったことなど、課題の所在を明らかにしました。今回は数学的な見方・考え方を働かせた単元計画の捉え直しを行ったこと、単元の導入時に減加法と減減法の2種類の計算方法がある授業を行うことで、今後いろいろな計算場面で自分でよりよい計算方法を選択できる力をつけたいとの提案を行いました。

教材研究には、多くの先生方がこの授業づくり講座に参加して、2学期からの授業にいかしたいという思いで参加されました。



今回の授業

四万十市立具同小学校 1年「ひきざん」 宮崎 奈苗 教諭

どんぐりを題材にした単元の導入で、減加法と減減法の2種類の計算方法ができる13-6の場面を取り上げました。既習のひきざんと違って、一の位から引けないことをおさえた後にブロック操作を行いました。計算方法を説明する場面では、板書にその過程が残るようにし、2つの計算方法の相違点をみていく授業展開となりました。





齊藤先生から「単元の勘どころ」「教材研究の知恵」「授業コントロールの機能」の3点について講話していただきました。

「ひきざん」の授業では、見方・考え方に着目し、言語活動の充実を目指した授業づくりをしていくためには、単元計画やその前に学習する「たしざん」の単元の時から考え、たしざんの学びがきっかけになるような問いをゴールと関連させていくことなど、具体例も多く挙げながら助言をいただきました。

授業者の声

単元と単元のつながりなども考えることができたので、教材研究を良いきっかけと思って資質・能力ベースの単元構想、授業展開を「たしざん」を含めて考えていきます。子供たちに力をつける事ができるよう、積極的に研修の場に参加し、実践にいかす姿勢ももたなければいけないと思いました。



参会者の声

従来の減加法と減減法の順ではなく、両方を同時に扱うことの良さを感じることができた。また、齊藤先生の講話から、子供たちの経験値（たしざん）から授業展開の工夫の大切さを学び、胸の中にストーンと落ちた。今日の提案ありがとうございました。日々の言語活動の充実、そして授業の積み重ね、板書の大切さ、当たり前のことですが、すごく参考になった。私は、1年生の担任をしておりますが、これからの学期、今回学んだことを実践に生かしていきたい。

参会者の声

既習の式と本時の流れの中で、扱う式などにつながりが見られ1時間の流れがすごくスムーズで分かりやすかった。子供のブロックの動きも実際にやってみたことで思考や反応がとてもわかりやすく参考になった。齊藤先生の講話を何度も聞くことで、学び直しができた。これからの単元でつける力についてもしっかりと考えていきたい。

参会者の声

自分自身内容ベースから資質・能力ベースへのきり返えが、まだまだきちんとできていないように思う。資質・能力ベースを意識した単元デザイン・授業デザインをしていくようにしていきたい。

「11月の学び場」のお知らせ

11月 2日(金) 中村中授業研究会(PM)

10月30日(火) 入野小授業研究会(PM)

11月15日(木) 清水中授業研究会(PM)

11月16日(木) 具同小授業研究会(PM)

ぜひ、参加してみてください!